

E N E O S スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE Rd.2 富士スピードウェイ



24 時間を完走 昨年に続き ST-2 クラス 3 位表彰台を獲得

5月24日(金)~26日(日)、富士スピードウェイにてスーパー耐久シリーズ 2024 第2戦が行われた。国内唯一の24時間レースとして年々イベント規模も大きくなり、エントリー台数は昨年より7台増の59台、来場者数も過去最高の延べ54,700人となった。ST-2クラスにも新たに1台のFL5型CIVIC TYPE-Rがエントリーし、全8台での熱い戦いが繰り広げられた。

HRDCはゲストドライバーとしてスーパーフォーミュラ2連覇の野尻智紀選手を迎え、5名のドライバー布陣にてシリーズで一番過酷なレースに臨んだ。

QUALIFY / 予選

開幕戦とは異なり、今大会は従来同様にA/Bドライバーの合算タイムで争われる形で予選が実施された。アマチュアドライバーによって争われるAドライバー予選では、石垣がクラストップタイムを記録。Bドライバー予選では、野尻選手が慣れないマシンで6番手タイムを記録し、合算タイムでクラス4位（総合26位）となった。

木立・柿沼・小林の3名もその後の予選およびフリー走行にて着実な走行を見せた。練習走行を含めて、ペース・燃費とも良い状態で走行できており、決勝での巻き返しに期待がかかる。

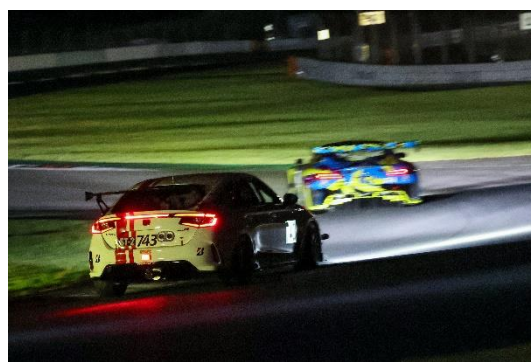
<予選リザルト>

Pos.	No.	Car	A Dr. Time	B Dr. Time	Total Time
1	6	新菱オート DXL 夢住まい館 EVO10	1'52.760	1'51.651	3'44.411
2	72	OHLINS CIVIC NATS	1'53.936	1'52.086	3'46.022
3	7	新菱オート VARIS☆DXL☆EVO10	1'53.325	1'52.838	3'46.163
4	743	Honda R&D Challenge FL5	1'52.676	1'53.567	3'46.243
5	225	KTMS GR YARIS	1'53.063	1'53.299	3'46.362
6	13	ENDLESS GR ヤリス	1'53.910	1'53.268	3'47.178
7	95	SPOON リジカラ CIVIC	1'53.921	1'54.034	3'47.955
8	36	HCM 内野製作所 FL5	1'56.397	1'59.868	3'56.265

RACE / 決勝

25日(土)15時に決勝レースがスタート。#743 Honda R&D Challenge FL5は野尻選手がスタートを担当。オープニングラップで順位を2つ上げると、その後も一時トップを奪う快走を見せる。序盤からトラブルに見舞われるライバル勢を横目に、石垣、小林とドライバー交代をしながら順調に走行を重ね、クラストップに躍り出るとレースはナイトセッションへ。柿沼、石垣とタスキを繋いでいくと、日が変わる直前からコースには雨が落ちてくる。

野尻選手にドライバー交代しコースインする頃には路面はウェットコンディションとなるが、スリックタイヤを履いたまま4WD勢をも凌駕するラップタイムで安定した走行を続ける。そのままダブルステントを走り切ると小林へ交代し、このタイミングでウェットタイヤに交換。徐々に路面が乾いてくると次の柿沼はタイヤをスリックへ戻してコースイン。ここで前のドライバーの乗車時間オーバーによるペナルティストップ120秒を受けてしまうが、それ以外にはトラブルなく木立、石垣と順調に走行を重ねていき、レースは朝を迎えた。



この頃には、#13 ENDLESS GR ヤリスが後続に数周差をつけてクラストップを走行、#6 新菱オート EVO10が2位、#743 HRDC FL5は約2周差で3位を走行していたが、残り3時間ほどのタイミングで前を走る6号車にペナルティストップ60秒の裁定が下る。これでギャップが1周を切り100秒ほどになると、チームは2位を狙って追い上げを図るべく、残りの時間を石垣に託す。

6号車も良いペースで走行を重ねギャップはなかなか縮まらずにレースは最終盤へ突入していたが、残り20分ほどのタイミングで6号車が大幅にペースダウン。トラブルが発生しているようで、1周あたり10~15秒ずつギャップを削っていく。大逆転の可能性にかけて追い上げるも、25秒届かずクラス3位でゴールを迎えた。

<決勝リザルト>

Pos.	No.	Car	Laps	Total Time	Gap
1	13	ENDLESS GR ヤリス	694	24:03'03.273	
2	6	新菱オート DXL 夢住まい館 EVO10	687	24:02'31.706	7 Laps
3	743	Honda R&D Challenge FL5	687	24:02'56.709	7 Laps
4	72	OHLINS CIVIC NATS	651	24:03'11.295	43 Laps
5	225	KTMS GR YARIS	620	24:01'30.374	74 Laps
6	7	新菱オート VARIS☆DXL☆EVO10	608	24:02'31.787	86 Laps
7	36	HCM 内野製作所 FL5	595	24:02'45.896	99 Laps
		*** 以上完走 (規定周回数 ST-2 : 485Laps) ***			
-	95	SPOON リジカラ CIVIC	281	14:35'16.414	413 Laps

ドライバーコメント

A ドライバー 石垣博基



開幕戦では今年から新たに参戦する FL5 勢の後塵を拝してしまい、チーム全員が非常に悔しい思いをしました。車両不具合やドライバーのミスをなくして、車の性能をしっかりと発揮することを目指して富士 24 時間に臨みました。

練習走行ではいくつかトラブルに見舞われましたが、チームメンバーが夜遅くまで修復にあたり完璧な状態に仕上げてくださいました。予選では、メンバーの想いに応えて性能を出し切れるようにアタックしました。決勝においては、前戦以降タイヤマネジメントの改善にエンジニアと共に取り組んできましたが、これが功を奏して、ペース・タイヤライフ・燃費を上手くマネジメントできたと感じています。

最後の 1 時間は、前車とのギャップを削って逆転するべく精一杯走りましたが、あと数周足りませんでした。悔しさは残るものの、チーム全体で一つでも上の順位を狙ってチャレンジできたことには達成感を感じています。

今回も多くの方に応援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

B ドライバー 野尻智紀



昨年の欠場にリベンジを果たすべく、思いを込めて臨んだ 24 時間でした。

予選では車体のパフォーマンスを引き出すことが出来ず、予選順位を下げてしまいとても悔しく、チームには重い雰囲気漂わせることになり悪影響を与えてしまいました。

しかし確信したこともあります。FL5 の進化に繋がったであろうこのチーム名に相応しい高い目標設定と目標をクリアしようとチャレンジする強いチームの意志を感じ取りました。決勝に向けて自分の集中力もさらに高まってきました。

決勝では、トラブルが一つもなくチーム全員が団結し、力を出し切った 3 位表彰台。私が担当した中でも深夜の雨は最も難しいコンディションでしたが、トップとの差を縮めようと多少のリスクを負いながらも無事 3 時間のステイトを走り切ることが出来ました。

苦しい中でも支えてくれたチーム、応援して下さったファンの皆さんへ感謝いたします。ありがとうございました。

C ドライバー 木立純一



決勝は 1 ステイト担当し、トータル 42LAP 走行しました。ウェットからドライコンディションに変わる中、柿沼選手からバトンを受け前後ユーズタイヤで走行開始しました。走行時間が朝でしたので、路面温度は低くタイヤの熱ダレは気にせず、タイヤマネジメントと燃費を気にしながら走行しました。昨年に比べ、フィジカルやドライビングに対する余裕があり、担当ステイト後半まで安定したペースを保ち、クラス 3 番手で石垣選手にバトンを渡すことが出来ました。

安定したペースで走行ができたのは、事前準備からレースウィーク中の対応含め、24 時間共に戦ってくれたチームメンバー全員のお陰です。ありがとうございました。

D ドライバー 柿沼秀樹



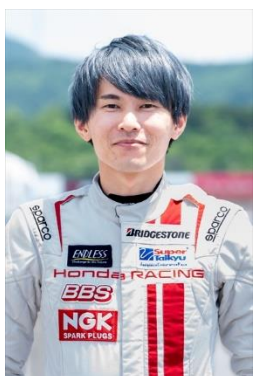
自身としては昨年の Rd.5 もてぎ戦以来 3 戦ぶりのレース参画となりました。これまで ST-2 クラス唯一の CIVIC TYPE R として孤軍奮闘してきましたが、今大会では FL5 のライバル 3 台を交えた 24 時間の戦いとなり、開発者として嬉しさと共に身の引き締まる思いで臨みました。

久しぶりにステアリングを握る HRDC FL5 は、接地性やコントロール性の面で昨年から明らかに進化がみられ、これまでのチームメンバーの取組み成果がしっかりと戦闘力の向上に繋がっていました。

決勝は日没後と夜明けの 2 スティントを担当し、スリックで雨上がりの難しいスティントを堪えながらも次のドライバーに無事タスキを繋ぐことが出来ました。

チームとして 4 回目の富士 24 時間レースでしたが、レースウィーク中の様々なトラブルや状況変化に対しメンバーが常に落ち着いて確実かつチャレンジングな取組みの結果、チーム全員で掴み取った 3 位表彰台であったと思います。温かく応援下さったすべての皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

E ドライバー 小林天翔



今回、24 時間のドライバーとしては初めて参加させて頂き、過去のデータから燃費・タイム・タイヤのマネージメント、夜間走行時の安定性 UP の 2 点を重視し本大会に臨みました。

事前の公式テストから多くのテストを行い、チームがタイヤ劣化や環境変化にも柔軟に対応できるマシンに仕上げてくれた事で、レースウィークを終始安心して走行する事ができました。特に初めての深夜の雨という厳しいコンディションでもフィーリングは良く、改めてマシンポテンシャルの高さを実感しました。

レースウィークに発生したトラブルもありましたが、メカニック達の懸命な作業により最後まで走り切る事ができました。夜遅くまで作業にあたってくれたメンバーに感謝しています。

開幕戦での悔しさをバネに挑んだ本大会でしたが、改めてチーム力の強さを感じています。今シーズンもまだまだ厳しい戦いが続くと思いますが、より一層強いチームとなれるよう挑戦を続けていきます。

最後に、皆さまからの多大なるご支援、ご声援に心より感謝申し上げます。



チーム監督コメント 長福夏紀

開幕戦での悔しさをバネに、今の我々にできることは何かを再度検討し、戦闘力向上策とミスを防止する体制を構築してチームは4度目の24時間レースに挑みました。

一人一人が自ら考えて行動できるまでに成長してきたことで、長丁場の中、刻々と変化していく現場でも体制を崩すことなくどっしりと対応できるようになっていることを肌身に感じることができました。

車両は練習走行でいくつかのトラブルは発生したものの、予選前に全ての問題を解決し、決勝中のトラブルはほぼゼロという、完璧な車とそれをサポートするメカニックの体制は他プロチームに引けを取らない、誇れるものだと確信しています。決勝ではいくつかの人的ミスもあり、2位の背中が目前に見えた3位という結果は非常に悔しいですが、3位を悔しいと言える位置にいるということが何よりもチームの成長だと感じています。

チームは毎戦、新しい挑戦をしています。それらがうまく機能することは決して多くないですが、挑戦を続けることがHonda R&D Challengeのパワーの根幹であり、「How we move you」の体現の一つです。

これからも挑戦を続けるHonda R&D Challengeチームの応援とサポートをよろしくお願いいたします。

チーム代表コメント 木立純一

2023年の富士24時間耐久はトラブルを抱えながらのクラス3位でしたが、今年はライバルを追い詰め2位まであと一步の3位となりました。

この結果が示す通り、昨年よりもチームの成長を強く実感した富士24時間耐久レースとなりました。今年の目標は昨年の成績以上とし、メカニック、戦略、ドライバー各領域に別れ、役割や行動計画を事前に議論し本番を迎えました。事前に議論を重ねたことで連携が深まり、チームの結束力が高くなったと感じております。HRDCメンバーはレースのプロ集団でなく、本業は量産車の開発ですが、1つの目標を達成する為にチームメンバー全員が一体となって行動することは、レースも量産開発も同じと認識してます。今回の結果はチームとして残念な結果となりましたが、この経験は自己啓発活動の目的である“ヒトづくり”に貢献できると確信しております。関係各位におかれましては、今回も多くの方にご支援、ご協力を頂きありがとうございました。まだまだシーズン続きますが、引き続きご支援ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ポイントランキング

Rank	No	Car	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	Total
1	13	ENDLESS GR YARIS	10.00	45.00	---	---	---	---	---	55.00
2	6	新菱オートDXL夢住まい館エボ10	4.00	37.00	---	---	---	---	---	41.00
3	225	KTMS GR YARIS	22.00	18.00	---	---	---	---	---	40.00
4	72	OHLINS CIVIC NATS	15.00	23.00	---	---	---	---	---	38.00
5	743	Honda R&D Challenge FL5	8.00	27.00	---	---	---	---	---	35.00
6	7	新菱オートVARIS☆DXL☆EVO10	6.00	13.00	---	---	---	---	---	19.00
7	95	SPOON リジカラ CIVIC	12.00	0.00	---	---	---	---	---	12.00
8	36	HCM 内野製作所FL5	---	9.00	---	---	---	---	---	9.00

< 問い合わせ先 > ※メールでお願い致します。

チーム代表 木立 純一 Junichi_Kidachi@jp.honda